

令和三年度 久留米市邦楽振興事業

箏曲のふるさと久留米

春を彩る 邦楽のしらべ

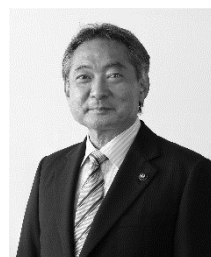
日時 令和四年二月二十三日（水・祝）十四時開演
会場 石橋文化ホール

主催 久留米市
共催 公益財団法人 久留米文化振興会

ご挨拶

久留米市長

原口 新五



本日は、「箏曲のふるさと久留米 春を彩る邦楽のしらべ」の演奏会へ、ようこそお越しくださいました。本演奏会は、近代箏曲の源流である「筑紫箏」を編み出した善導寺の僧・諸田賢順を顕彰するとともに、箏曲発祥の地である大本山善導寺を広く知っていただく事を目的に開催しております。ご支援・ご協力いただきました大本山善導寺をはじめとする多くの関係者の皆様方に、心より感謝を申し上げます。

近年は新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術の分野において公演の中止・延期が続くなど厳しい状況が続いておりますが、皆様に邦楽の素晴らしい演奏をお届けするために、本演奏会では必要な感染対策を講じ、オンライン配信を行うなどの新たな取り組みを検討し、開催に至りました。

本日は、地元の久留米三曲協会の皆様をはじめ、昨年の賢順記念全国箏曲祭で銀賞を受賞された林正典氏、邦楽演奏家として国内外で活躍されている、くるめふるさと大使の川瀬露秋氏、さらに本演奏会の企画にもご協力を賜りました、特別出演の藤井泰和氏と、多彩な演奏家の皆様がご出演されます。箏や尺八、三絃の美しい音色を、どうぞ心ゆくまで堪能ください。

本市としましては、今後も、邦楽の振興並びに音楽の力を活かした魅力あふれるまちづくりを推進していきたいと考えております。本日ご出演・ご協力いただいた皆様方のさらなるご活躍・ご発展を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

《出演者》

川瀬 露秋（くるめふるさと大使）

《特別出演者》

藤井 泰和

久留米三曲協会

上津原 鈴々

林 正典

銀明会九州支部有志会員

曲
目

黒田節による幻想曲

秋風の曲

玉川

融

黒田節による幻想曲

(沢井忠夫作曲)

箏独奏

一 箏

二 箏

十七絃箏

尺 八

宮	渡	猿	川	三	江	塚	清	永	合	田	山	平	河	岩	江	田
地	辺	渡	野	枝	頭	本	水	瀬	屋	中	諸	田	津	村	崎	中
牙	畢	怜	雅	裕	雅	美	レ	真	小	登	雅	千	喜	雅	多	恵
山	山	山	楽	子	楽	代	イ	由	代	代	楽	代	美	芙	代	美
			莉		秀	子	子	美	子	子	芙	香	子	姫	子	子

〔解説〕

黒田節は、元来、九州福岡の旧黒田藩士によって歌われていたものですが、昭和三年NHK福岡放送より「筑前今様」という題で紹介され、翌年「黒田節」と改題したところ、俄然、全国に広まりました。ここでは、室内協奏曲的な変奏曲形式をとり、新日本音楽時代の華やいだ雰囲気や頭を描きつつ、合奏曲にまとめたものです。

秋風の曲

（光崎検校作曲　蒔田雁門作詞）

箏　　林　　正　典

〔歌詞〕

へ求むれど得難きは　色になんありける　さりとては楊家ようかのめこそ　妙なるものぞかし
雲のびんづら　花の顔　げに海棠かいどうのねむりとや　大君おおきみのはなれもやらで　眺めあかしぬ
碧みどりの花の　行きつ戻りつ　いかにせん　今日九重に　引き換えて　旅寝の空の秋風

霓装羽衣げいしょういの仙樂せんがくも 馬嵬ばかいの夕べに 蹄ひづめの塵を吹く 風の音のみ残る悲しさ

西の宮 南の園は秋草の露しげく 落つる木この葉のきざはしに 積つれど誰かはらはん

鴛鴦えんおうの瓦は 霜の花匂ふらし 翡翠ひすいのふすま ひとりきて などが夢を結ばん

〔解説〕

白楽天の『長恨歌』から内容を借用し、玄宗皇帝と楊貴妃の悲劇を歌った曲です。歌は飾り気のない簡素な箏の音に乗って、はっきり明確な節付けで作曲されており、ドラマティックな内容を淡々と表現した名曲です。

調弦は、三橋検校考案の秋風調子が使われています。

歌に先立ち、段物を意識して作られた六段構成の長い前弾きがあり、段物と同じ拍数で作曲されています。また、歌が付くところからは、組歌を意識した作曲となっています。

玉川

(国山勾当作曲 穂積頼母作詞)

三絃替手

三絃本手

胡弓

藤井 泰和
司城 静子
松野 孝子
川瀬 露秋

〔歌詞〕

へ山城の 井出や見ましと駒止めて

なほ水飼^かはん山吹の花の露そふ春も暮れ

夏来にけらし見渡せば 浪の柵^{しがらみ}かけてけり 卯の花咲ける津の国の

里に月日を送る間に いっしか秋に近江^{あふみ}なる 野路には人の明日も来ん

今を盛りの萩越えて 色なる浪にやどりにし 月の御空^{みそら}の冬ふかみ

雪気催ほす夕ざれば 汐風越して陸奥^{みちのく}の 野田に千鳥の 声淋しゆかし

名だたる武蔵野に晒^{さら}す

(手事)

へさらす手づくりさらさらに 昔の人の恋しさに 今はたそひて奥山の

その流れをば忘れても

汲みやしつらん旅人の 高野たかのの奥の水までも 名に流れたる 六つの玉川

〔解説〕

玉川とは川の名で、玉のように綺麗な川という意味です。全国にこの名を持つ川は多く、歌枕で有名な玉川を詠んだ和歌六首を、四季の順に山城（京都府）、摂津（大阪府）、近江（滋賀県）、陸奥（宮城県）、武蔵（東京都と神奈川県の間）、紀伊（和歌山）と引用しています。

歌集などの部立てに倣い、春・夏・秋・冬・雑のような順番に並べ、四季に配し、手事部で「さらし」を描写しています。

この度は、九州系の特徴である三絃同士の本手・替手に、胡弓を加えた形で演奏します。なお、数ある地歌曲の中でも、三難替手のひとつと言われている超絶技巧の替手が入ります。

尺	三	箏
八	絃	
上	尾	藤
津	田	井
原	桂	泰
鈴	子	和
々		秋

〔歌詞〕

へあの籬まがきが島の松陰まつかげに 明月めいげつに舟を浮かべ 月宮殿げつきゆうでんの白衣はくえの袖も

三五夜中さんごやちゆうの新月の色 千重振るや 雪ゆきを廻めぐらす雲の袖

さすや桂の枝々に 光を花と散らす粧よそほひ

ここにも名に立つ白河の 波の あら面白おもしろや曲水きよくすいの盃 うけたりうけたり遊舞ゆうぶの袖

(手事)

ゝあら面白の遊樂ゆうらくや　そも明月のその中に　まだ初月はつづきの宵々に　影も姿も少なきは

如何いかなる謂はれなるらん　それは西岫さいしゅうに　入り日の未だ近ければ

その影に隠さるる　たとえば　月のある夜よは　星の薄きがごとくなり

青陽せいようの春の始めには　霞む夕べの遠山

眉墨まゆずみの色に三日月の　影を舟にもたとへたり

また水中の遊魚いふぎよは　釣り糸とも疑ふうたが　雲上の飛鳥ひちようは　弓の影とも驚く

一輪も降くだらず　万水も昇らず　鳥は地辺ちへんの樹きに宿しゆくし

魚は月下うおげっかの波に伏す　聞くとも飽あかじ秋の夜の　鳥も鳴き

(手事)

ゝ鐘も聞こえて　月もはや影傾きて明け方の　雲となり雨となる

その光陰に誘はれて　月の都に　入り給ふ粧ひ

あら名残惜しの面影や

〔解説〕

この曲は、石川勾当が江戸時代中期に作曲し、「石川三つ物」の一つと言われています。

謡曲の世阿弥の傑作と言われる「融」から歌詞が取られています。河原左大臣源融が風雅を尽くした塩釜の廃墟を描き、融の亡霊が遊舞の袖を翻し、夜明けとともに去っていくという内容です。

全曲を通じて、月の幻想的な情景が展開され、河原左大臣源融は源氏物語の光源氏のモデルとも言われています。また、九州系地歌の中でも、最も難曲かつ格式高い曲のひとつとされています。

本日は、箏と三絃、尺八の典型的な三曲合奏で演奏します。

《特別出演者》

藤井 泰和（ふじい ひろかず）

幼少より祖母阿部桂子、母藤井久仁江（人間国宝）に箏と三絃の手ほどきを受ける。

東京藝術大学卒業。同大学院修了。

一九八六年 NHK邦楽オーディション合格。八十九年 フラメンコ舞踊家小松原庸子氏とスペインマドリッドにて共演。九十年 スペインセビリアより国際弦楽器フェスティバルに招待される。二〇〇〇・〇一年 坂東玉三郎特別公演に全国各地で出演。

二〇〇六年 銀明会三代目家元を襲名。同年バイオリンスト千住真理子氏と「春の海」を共演。十一年、日・独交流百五十周年記念行事で「藤井泰和地歌公演」をドイツ各地で開催。〇四年シアトルにて「藤井泰和地歌公演」を開催。

その他自身のリサイタルを毎年開催、ライブ活動や国内外での演奏活動、TV、FM放送、CD録音、舞踊地方などで高い評価を受けるほか、各地の稽古場で後進の指導に当たっている。

これまで、久留米シティプラザ久留米座で開催された「川瀬露秋ブレゼンツ 邦楽コンサート」や、「春を彩る邦楽のしらべ」に出演、企画にも携わる。



福岡県知事賞、文化庁芸術祭新人賞・同優秀賞受賞。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。紫綬褒章受章。

（公社）日本三曲協会常任理事、生田流協会常任理事、目黒区邦楽連盟副会長、二十一世紀邦楽の会顧問、東京藝術大学講師歴任、銀明会会長

CD制作「藤井泰和の三弦」（作品Ⅰ、Ⅱ）「藤井泰和の松浦四つ物」「松・ことほぐ」ほか

《出演者》

川瀬 露秋（かわせ ろしゅう）／くるめふるさと大使

久留米市出身。

七歳より箏・三絃を三原幽香に師事。

十五歳より生田流箏曲白秋会家元川瀬白秋の内弟子として箏、三絃、胡弓を学ぶ。同時に九州系地歌三絃を井上道子に師事。

昭和六十二年『白秋会二十五周年記念演奏会』（国立小劇場）にて「三曲系の調」を演奏、小林露秋の名を許される。平成二十一年、川瀬白秋の養女となり、平成二十三年、『白秋会五十周年記念演奏会』（国立小劇場）にて「阿古屋」を演奏、川瀬露秋改名披露。

平成二十六年、公益財団法人日本文化藝術財団『創造する伝統賞』受賞。平成二十七年、『くるめふるさと大使就任』、同十月『第一回川瀬露秋の会』を開催。

平成二十八年、『明日を担う新進舞踊・邦楽鑑賞会』に「吾妻獅子」を胡弓で出演。同年『第二十回公益財団法人日本伝統文化振興財団賞』受賞。

平成二十九年、アメリカ・モデスト市との姉妹都市締結二十五周年を記念し、市長とともに久留米市より派遣され、文化交流として箏や三絃を披露。

これまで、久留米シティプラザ久留米座で開催された「川瀬露秋プレゼンツ 邦楽コンサート」や、善導寺で開催された「春を彩る邦楽のしらべ」に出演。



現在、九州系地歌を藤井泰和に師事し、三曲界と共に舞踊の地方、歌舞伎音楽（箏、三絃、胡弓）の演奏、編曲、三曲指導、後見に携わり、国内外にて演奏活動を行っている。

令和元年、第三十九回伝統文化ポラ賞奨励賞を受賞。

日本三曲協会理事、生田流協会理事、国立劇場養成課（竹本）講師、白秋会代表

久留米三曲協会

久留米三曲協会は、箏・三絃・尺八の普及向上と久留米の文化発展に寄与することを目的に創立され、現在、久留米市を中心とした十三社中が活躍している。

毎年、秋に開催する定期演奏会は、令和三年で五十六回を迎えた。古典曲から現代曲まで、お客様に楽しんでもらい、また、心豊かな時を過ごしていただけるよう、会員一同精進している。



林 正典

佐賀県武雄市出身

六歳より箏、十二歳で三味線を母から手ほどきを受ける。

第三回利根英法邦楽コンクールく古典く奨励賞受賞。第六回利根英法コンクールくアンサンブルく奨励賞受賞。第六十回佐賀県新人演奏会にて最高賞の佐賀県新人奨励賞受賞。

平成二十九年「藝大生による木曜コンサート」では十七絃のソリストを務める。令和三年度、第二十八回賢順記念全国箏曲コンクールにて銀賞受賞。

東京藝術大学音楽学部邦楽科箏曲生田流専攻卒業。同大学院修士課程修了。

現在、深海さとみ、山口典江の各師に師事。宮城社師範、森の会、同声会、千種会会員



近世箏曲の源流である「筑紫箏」を作り出した善導寺の僧 諸田賢順

箏曲の創始者として高名な鎮西大本山・善導寺の僧・賢順^{けんじゅん}(1534～1623)は、少年の頃から中国の七絃琴や善導寺の寺社楽を修め、筑紫箏^{つくしごと}を編み出しました。

その後、高弟の一人である法水^{ほっすい}が江戸へ行き、三絃の名手である八橋検校^{やつはしけんぎょう}にこの筑紫箏を伝授しました。

八橋検校は、これをさらに改調編曲して今日の生田流・山田流に受け継がれ、善導寺は「箏曲発祥の地」、久留米市は「箏曲のふるさと」と言われています。



浄土宗大本山善導寺(久留米市善導寺町)



「箏曲発祥の地」記念碑(善導寺境内)

主 催 久留米市

共 催 公益財団法人 久留米文化振興会

企 画 藤井 泰和

構 成 公益財団法人 久留米文化振興会

協 力 川瀬 露秋(くるめふるさと大使)、久留米三曲協会、大本山善導寺

